

令和5年度 山梨県立わかば支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	社会の一員として、それぞれの場で、安定した社会生活を営むことができるよう「たくましい力 ゆたかな心」をもった児童生徒を育成する
-----------	---

本年度の重点目標	1 特別支援教育の推進
	2 3学部をととした系統性・一貫性のある教育活動の展開
	3 安心・安全な学習環境の確保
	4 個に応じた指導の提供
	5 教員の働き方改革の推進

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

山梨県立わかば支援学校校長 小林 勝

自 己 評 価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	特別支援教育の推進	教職員の専門性の向上	・各種研修会の開催 ・外部専門家との協働
		授業力、授業づくりの向上	・校内研究の実施 ・アンケートの実施
		地域へのインクルーシブ教育システムの推進	・地域の関係機関への研修回数 ・コーディネーターの地域の学校への訪問支援の状況
2	3学部をととした系統性・一貫性のある教育活動の展開	学部目標の柱を統一したことによる系統性・一貫性のある教育課程の編成	・校内研究の実施 ・アンケートの実施
		目標を明確にした体験的学習による教育活動の推進	・実施状況 ・アンケートの実施
3	安心・安全な学習環境の確保	防災・防犯に向けた危機管理体制の確立	・マニュアルの整備 ・効果的な訓練の実施状況
		施設・設備の定期点検による安全の確保	・危険箇所の把握等の対応状況
		児童生徒が安心できる学習環境の確保	・アンケートの実施
4	個に応じた指導の提供	「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を活用した適切な指導及び必要な支援の提供	・活用及び提供状況 ・アンケートの実施
		「キャリア教育発達段階アセスメントシート」「キャリアパスポート」による客観的な実態把握の促進	・アセスメントシート、キャリアパスポート実施状況
		評価規準の明確化及び指導と評価の一体化	・評価項目の具体化 ・アンケートの実施
		ICT機器の活用と遠隔教育の環境整備	・ICT機器の使用状況 ・ICT活用能力実態チェックリストの活用状況 ・アンケートの実施
5	教員の働き方改革の推進	各自の設定する定時退校、夏季休暇、年休消化の実践により私生活を充実させ教育の充実に反映させる。	・各自設定定時退校日、年休消化状況
		「働く意欲が高まる職場」の創出	・アイディアボックスの設置 ・ストレスチェックの集団分析結果
6			
7			

年度末評価(12月19日現在)		
自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
・校内研究は、全体、学部、グループで「評価」をテーマに行った。月1度の研究日を設けた。 ・夏季休業中には外部専門家を招へいして研修会を行った。 ・地域関係機関への研修2回 ・コーディネーターの地域の学校訪問支援22回 ・専門家相談67回	A	・校内研究は、研究推進部を中心に、指導と評価に向けた個別指導計画・通知表の書式検討を、事例研究を通して検証する。 ・回答できる児童生徒の授業評価は9割以上が肯定的だった。 ・訪問支援は訪問先で有効に活用された。引き続き特別支援教育の理解を進めていく必要がある。
・教育課程の一貫性についてアンケートで教職員8割が達成と回答。 ・校外学習・交流学习・校内外での実習など児童生徒の発達に応じた体験的学習を行った。	B	・少数意見に「学部間の連携が十分でない」という意見があった。学部間の情報共有や交流を進めていく。 ・児童生徒の体験学習についての評価は9割以上が肯定的だった。
・マニュアル各項目は整備済。 ・防災教育や学習環境整備は10割近くが達成と自己評価した。 ・施設設備修繕は8割以上が迅速に対応されていると自己評価した。	A	・危機管理マニュアルを1冊にまとめる。 ・防災教育に関する児童生徒の評価は9割以上が肯定的だったが、現在の児童生徒を取り巻く状況を踏まえ、10割を目指す。
・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用と適切な指導・支援については教職員8割以上が達成できたと回答。 ・評価をテーマに校内研究を行い、指導と評価の一体化に教職員全員で取り組んだ。 ・一人一台タブレットやネットワーク環境が整備され、教職員9割が授業で有効にICT機器を活用と回答。	B	・ほぼ全員の児童生徒が授業でICT機器の活用していると回答しているので、より効果的に使用できるように取り組んでいく。 ・キャリアパスポートはどの学年も実施しており、継続していく。アセスメントシートは高等部のみ実施しているが、目的がはっきりせず、あまり活用されていないので、今年度末までに再検討していく予定。
・年休取得平均15日(良好) ・業務内容により定時退校が難しい職員がいた。 ・早出勤務や休憩時間の勤務振替を新たに実施した。 ・アイディアボックスは本年度は設置しなかった。	B	・ストレスチェックより、職場の支援は良好であるが、仕事量の負担健康リスクが全国平均より高い。高ストレスを抱えている職員10人。働き方改革を続けていく。

学校関係者評価	
実施日 (令和6年2月19日)	
評価	意見・要望等
3.7	・外部専門家との協働や月一回の校内研究など、専門性向上のための取組が積極的に行われてきたことを評価する。 ・外部専門家利用が教員の意欲向上につながり、そこで得た専門性を日々の教育活動に活用していただけるようお願いする。 ・地域へのインクルーシブ教育推進に関して、今後、さらに、居住地校交流や地域との交流の機会を促進するための取組みを進めていただきたい。
	・大規模校であるがゆえの学部を越えた相互のやり取りに困難さがあると感じた。児童・生徒には、学部が変わる際に決して順調にいかない難しさがあるので、12年間を通じた児童生徒個々に沿った連続性がある指導内容が検討されるよう願う。 ・3学部の系統性・一貫性、学部間での情報共有をすすめるためには、普段の生活において教員間で使用される支援教育の用語がどの程度共通理解されているのかが重要と考える。学部を超えて重要な用語をそろえていく取組みが大切になってくると思う。
4	・防災教育や学習環境整備の自己評価が高かったことから、実施できていたことを評価する。高等部に低い評価をした生徒が数人見られることから、引き続き登下校の安全も含め、生徒自身が自分で自分の身を守るための危険認識力が高められるようご指導いただきたいと思う。 ・防災教育に力を入れている点は、たいへん意義深い。 ・SNSの使い方など、情報モラル教育を継続・充実していただきたい。
4	・アセスメントシートは改善途中とのことだが、児童生徒が自分のことを振り返り記入していくキャリアパスポートは実施しているということを聞いて、なかなか客観的に自分のことを振り返ることは難しいと思うが、これを個別的教育支援計画・指導計画に活かすことでより本人に合った計画が作成できると期待する。簡単な作業(授業)ではないと思うが引き続きお願いする。 ・各学部でPDCAサイクルに基づく授業実践が展開されていると理解した。今後、各教科の評価基準を明確にする試みやそれらを教員間で共有する取組みが重要になると考える。
3.7	・定時退校の実施に課題を感じる。 ・高ストレスを抱えている一部の職員がいるようなので、前年同様だが学校行事や分掌業務等の精選を図りながら、一部の職員に業務が偏らぬようにしてもらいたい。教職員の心身の健康が何より。 ・負担感が大きい状態の学部に対して、それを改善するための手立てが綿密に検討されている点が評価できる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。